

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰに向けた事前・事後指導のための科目である。1年次の授業での経験を踏まえ、保育士としての専門性や現場での実践知をより高めるための準備・事後考察を目的とする。子どもとの関わりのみではなく、保育所の現状や保護者からのニーズ、法的環境等、多角的に保育を捉える視点を養い、より良い実習に繋げることを目指して指導する。保育士としての実務経験に基づいた独自の教材を準備、保育園等にて保育業務に携わる知識・技能と実践について幅広く学び、理解を深める。

授業計画

第1回	ガイダンス（保育者の職務と倫理、保育者の在り方について）
第2回	保育実習について（目的/概要/実習の流れ/課題）
第3回	保育所の一日の流れ（保育所における保育計画・指導計画の理解）
第4回	子どもの発達に応じた保育のあり方（乳幼児の発達の理解）
第5回	グループワーク①：製作などの準備を通して子ども支援の理解
第6回	グループワーク②：絵本・紙芝居の読み聞かせなど、視聴覚教材の特性と理解
第7回	実習日誌の書き方①（日誌の書き方と意味）
第8回	部分実習指導案の書き方（0～5歳児の活動のねらい）
第9回	部分実習指導案の書き方（題材・活動内容等の記入について）
第10回	グループワーク③（読み聞かせ/模擬保育）
第11回	実習園でのオリエンテーションの受け方
第12回	実習日誌の書き方②（日誌の目的・内容と方法）
第13回	グループワークの発表会と保育内容の考察、相互評価
第14回	保育所実習を前にして（より良い保育専門職となるために自らの課題を明確にする）
第15回	保育実習Ⅰの実習直前指導（実習の持ち物・心構えなど、実習に向けての最終確認）
第16回	保育実習Ⅰの事後考察（自己評価/報告書作成/グループディスカッション）

※外部講師（保育園長）を招聘して講演会を聴講する場合もある。計画表等は授業内にて周知する。

到達目標

1. 保育実習の意義・目的を理解することができる。
2. 保育所における保育・指導計画と援助・支援等を理解できる。
3. 実務者を含む様々な講師（児童福祉施設の保育士・職員などの外部講師も含む）からの、保育業務に携わる知識・技能についての理解と習得を図ることができる。
4. 保育実習Ⅰの反省と保育実習Ⅲへ向けての考察をすることができる。

履修上の注意

1. 保育実習Ⅰ（保育所）を履修予定の学生は必修である。
2. 科目の特性上、原則として遅刻・欠席等は一切認められない。
3. 実習を挟んだ授業展開のため、開講スケジュールは変則的になる場合があるので、講義内および掲示板での告知を各自確認すること。

予習・復習

毎回、指導案・日誌・製作などの課題が出る。それらの課題や作成書類等の提出は、必ず期日を守ること。

評価方法

授業の取り組み態度、講義内での発言（30%）、課題・提出物の内容（50%）及び模擬授業（20%）等から総合的に評価する。

テキスト

『保育所保育指針（平成29年告示）』 厚生労働省/著 フレーベル館/編 ISBN：9784577814239
参考書『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤 実・森本昭宏/編著
創成社/出版 ISBN：978-4-7944-8099-6